

都市再生整備計画

べっ ぷ こう えん しゅう へん
別府公園周辺地区

(第3回変更)

おおいた べっ ぷ し
大分県 別府市

令和7年3月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)－②

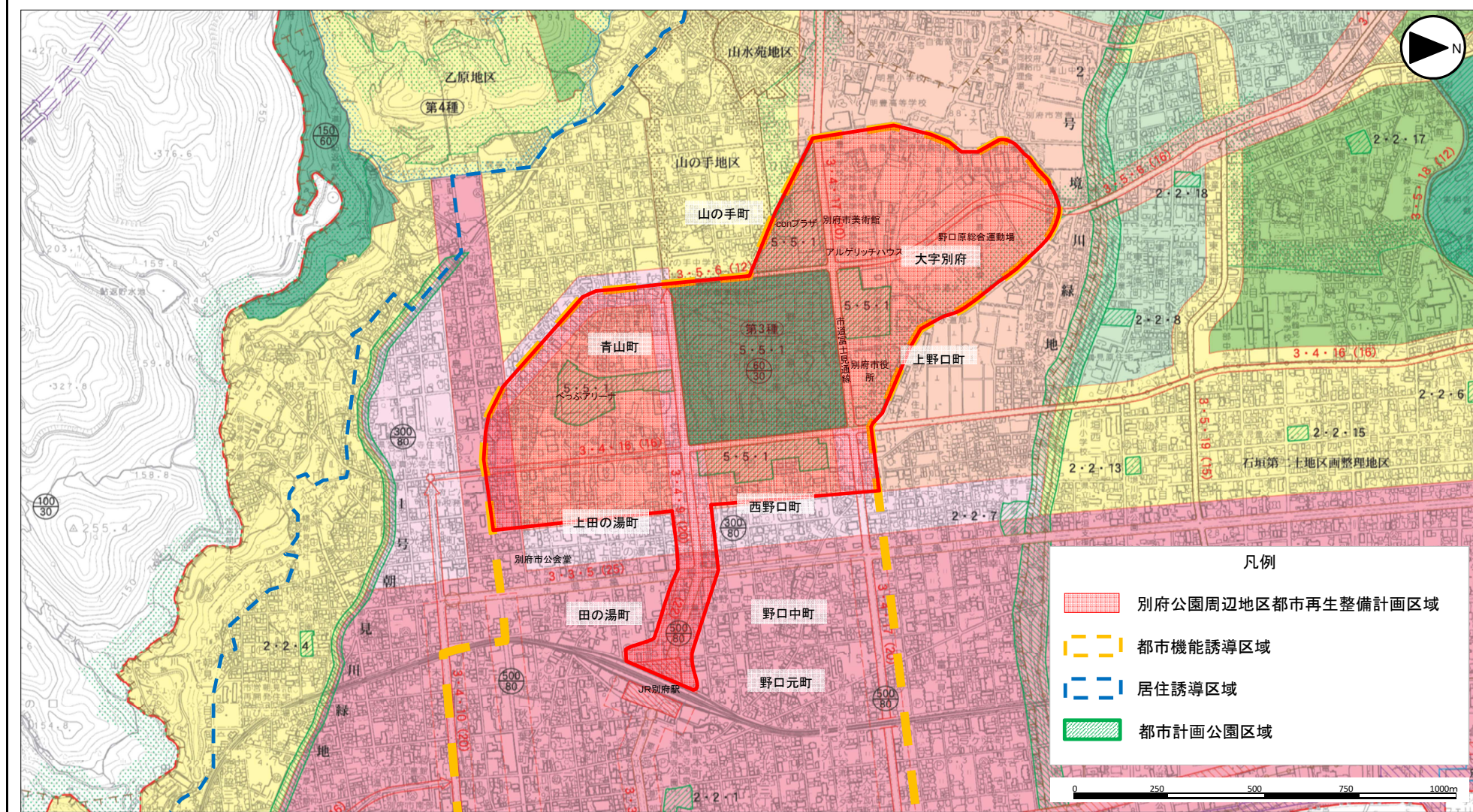
都道府県名	大分県	市町村名	べっぶ別府市	地区名	べっぶこうえんしほうへん別府公園周辺地区	面積	80	ha
計画期間	令和3年度	～	令和7年度	交付期間	令和3年度	～	令和7年度	

目標
・JR別府駅を中心とした別府公園周辺を含む中心拠点の賑わいの再生 ・学びの拠点として、図書館及び地域交流センターの一体的な整備による多くの市民が集う新しい魅力の創出 ・周辺の既存施設の再整備や導線の整備によるネットワーク及び歩行空間の形成
目標設定の根拠
都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) 本市では、昭和34年の国際観光港の移転や昭和34年から実施した石垣土地区画整理事業、また、九州横断道路(やまなみハイウェイ)をはじめとした幹線道路の整備などにより、市街地が拡がり、都市機能の拡散や別府駅を中心とした中心市街地の空洞化が進んでいる。また、本市は日本一の湧出量を誇る温泉を中心とした観光都市であり、年間約900万人の観光客が訪れている。こうしたことから、別府駅を中心とした中心拠点において、民間や公共が保有する低未利用地の活用や老朽化した公共施設の中心拠点内部での更新を行い、都市機能の拡散防止と中心拠点の公共・公益サービス機能の維持を図る。また、別府八湯と呼ばれる温泉地を中心に観光拠点の魅力の向上を図り、交流人口の拡大を図る。 公的不動産の活用については、現在、中心拠点に隣接する地区において保育所、子育て支援センター及び多世代交流の場となる地域交流センターの複合化の整備事業や、統合中学校の整備等を行っているところであり、今後も施設の統合や複合化を図ることや跡地となった公的不動産については、民間資金の活用を基本として都市機能の誘導や有効な活用を図る。
まちづくりの経緯及び現況
別府公園はJR別府駅から約700mにある別府市のシンボリックな公園で、公園内には、ピーコプラザ(国際コンベンションセンター)、べっぶアリーナ(総合体育館)などがあり、周辺には別府市役所(本庁)や別府市美術館、アルゲリッチハウスなどが立地している。また、近接して別府翔青高校、明豊高校(小中)や青山中学校が立地しており、別府市の中でも文化関係の中心となる地区である。そのような立地条件を活かし、賑わいの拠点づくりを行うため、別府公園内に新図書館の建設を計画し、多くの市民が計画段階から参画していく仕組みとして「オープンプラットフォーム会議」をスタートし、様々な議論を重ねてきたところである。
課題
・JR別府駅周辺の中心拠点の空洞化が懸念されている。 ・現市立図書館は、幅広い人が集まる拠点とすることが難しい。 ・地区内の駅や公共施設等を結ぶ市道において歩きたくするような良好な歩行空間になっていないところがある。
将来ビジョン(中長期)
【第4次別府市総合計画】 「政策3:子育て・教育」の「施策3【生涯学習】学ぶ機会の拡充及び地域で活躍する人材の育成」の中で、新図書館等の整備及び多機能化が掲げられている。 【別府市立地適正化計画】 ・公共施設や学校などが集積するこの地区を文化拠点と位置付け、その中心となる図書館等の複合施設を整備し、公共サービス等の機能の集積を図ることとしている。

都市構造再編集集中支援事業の計画							
都市機能配置の考え方 ・別府市は比較的コンパクトな市街地を形成していることから、既存の都市構造を基本としながら、将来的には別府駅を中心とした中心拠点に都市全体を考慮した必要な都市機能を誘導する。 ・中心拠点の中でも特に文化的な施設が集積している本地区には、市役所等の行政機能や教育文化施設などの集積及び機能の充実を図り、更なる賑わいの創出を図る。							
都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方 ※誘導施設を整備する場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。 ・「教育」・「健康・福祉」・「産業」・「アート」・「まちづくり」に貢献する地域の創造拠点として、また、市民が憩い、安らぎ、暮らしを楽しむ公共空間として機能することを目指し、図書館と地域交流センターの整備を図る。 ・市役所本庁等の公共施設や学校等の施設との連携を図るとともに、中心拠点内の移動の円滑化及び各施設へのアクセスの向上、魅力的な歩行空間の形成等を図るため、歩道空間の整備や公園、広場等の整備を行う。							
都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等							
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
新図書館の利用者数	人/年	新図書館の年間利用者数	別府公園周辺地区における賑わいの創出と魅力の向上	143,000人/年	H30	500,000人/年	R7
市道富士見通線の歩行者数	人/8H	歩行者通行量調査による8時間(9～17時)の歩行者数	歩行空間の魅力の向上による賑わいの創出	247人/8h	R2	370人/8h	R7
中心市街地の活気の満足度	%	市民アンケート調査による「中心市街地の活気」が満足と感じている市民の割合	別府公園周辺における賑わいづくりによる別府駅周辺の中心市街地の活気の再生	18%	R1	27%	R7

計画区域の整備方針	
【JR別府駅を中心とした別府公園周辺を含む中心拠点の賑わいの再生】 ・JR別府駅を中心とした中心拠点に都市機能施設等を誘導するとともに、別府駅から別府公園周辺の各文化施設等への回遊性を確保し、長い時間滞在できるような魅力ある拠点を形成する。	方針に合致する主要な事業 誘導施設:図書館 高次都市施設:地域交流センター 地域生活基盤施設:市民広場、情報板整備 高質空間形成施設:市道富士見通線 提案事業:歩行空間形成検討調査、事業効果分析調査
【学びの拠点として、図書館及び地域交流センターの整備による多くの市民が集う新しい魅力の創出】 ・別府公園内に新図書館及び地域交流センターを整備し、多くの市民が集う学びの拠点形成による賑わいの創出を図る。 ・計画区域内にある市役所庁舎の市民広場を再整備し、エリア全体のブランド力を向上させ、新図書館と連携した賑わいづくりを行う。	誘導施設:図書館 高次都市施設:地域交流センター 地域生活基盤施設:市民広場 高質空間形成施設:市道富士見通線外2線 道路:市道富士見通線外2線 公園:別府公園 提案事業:歩行空間形成検討調査、事業効果分析調査
【周辺の既存施設の再整備や導線の整備によるネットワーク及び歩行空間の形成】 ・新図書館周辺の歩道整備及び、市民広場を整備し、ウォーカブルな空間整備を行う。	高質空間形成施設:市道富士見通線外2線 道路:市道富士見通線外2線 公園:別府公園 地域生活基盤施設:情報板整備 提案事業:歩行空間形成検討調査、事業効果分析調査
その他	
【まちづくりの住民参加】 ・新図書館建設に関しては、構想段階から市民参画を促し、新しい図書館等のイメージを市民とともに共有することを目的とした公開型ミーティングのオープン・プラットフォーム会議を開催してきている(令和元年度3回開催)。 ・また新図書館が多くの市民活動の拠点となるよう検討を行っている。	
【官民連携事業】 ・新図書館の運営に関しては、行政、市民、民間事業者の参画による「官民連携プラットフォーム」を組織し、社会の多様なニーズや、新しい時代の要請に応える機能やサービスを民間主導・行政支援型で実施することを検討している。	
【立地適正化計画における位置づけ】 ・都市機能誘導区域とする中心拠点の内、公共施設や学校などが集積する別府公園の周辺を文化拠点と位置づけ、その中心となる図書館等の複合施設を整備する。	

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



別府公園周辺地区(大分県別府市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

目標	・JR別府駅を中心とした別府公園周辺を含む中心拠点の賑わいの再生 ・学びの拠点として、図書館及び一体的な民間施設等の整備による多くの市民が集う新しい魅力の創出 ・周辺の既存施設の再整備や導線の整備によるネットワーク及び歩行空間の形成	代表的な指標	新図書館の年間利用者数 (人/年)	143,000人/年 (H30年度) → 500,000人/年 (R7年度)
			市道富士見通線の歩行者数 (人/8H)	247人/8h (R2年度) → 370人/8h (R7年度)
			中心市街地の活気の満足度 (%)	18% (R1年度) → 27% (R7年度)

